

青山 実験 工房

能舞台から現代の音楽／表現と能楽の可能性を創造・発信する

第6回公演

2021年12月6日(月) 18:30開演 (18:00開場)

会場 | 鑊仙会能楽研修所 (東京メトロ「表参道」駅下車)

[expt. A]・『ミナマタ』(1976) 演奏(録音再生):秋吉敏子とルー・タバキン・ビッグ・バンド(詩:観世寿夫)

- ・ジキシ・ルイ・バローの映像(1977)と渡邊守章氏のトーク映像(2019)
- ・狂言師 野村万作氏に聞く (聞き手:清水寛二)

[expt. B]・早坂文雄『うぐひす』(1944) 上杉清仁(カウンターテナー)

- ・E・サティ『乾からびた胎児』(1913) 訳:秋山邦晴 高橋アキ(朗読)
- ・福島和夫『途絶えない詩』(1953) 甲斐史子(Vn)
- ・湯浅譲二『雪は降る』(1972、録音再生) 舞踊:花柳奈卯女
- ・即興 甲斐史子(Vn)、上杉清仁(Ct)、高橋アキ(詩朗読) 清水寛二(舞)

料金(全席自由):前売一般 4,000円 / 前売学生 2,000円 (当日一般 4,500円 / 当日学生 2,500円)

問い合わせ・申込み:鑊仙会 [03-3401-2285 / <http://www.tessen.org>] マルメロ [marmeloyama@gmail.com]

主催:オフィスしみかん、青山実験工房実行委員会

高知県立美術館 青山実験工房公演「即興」より 撮影:釣井泰輔

青山実験工房

能舞台から現代の音楽／表現と能楽の可能性を創造・発信する

詩的実験は、どんな時代、どんな状況にも、失ってはならないものなのだ。

戦後の表現に大きな影響を与えた「実験工房」*や能楽界の先達に敬意を表しつつ、「実験工房」ゆかりの楽曲や新作の演奏と舞、演能、「サティ∞能」、「フェルドマン能」、影能、能と琉球舞踊・組踊の比較上演など。青山実験工房は、伝統と現代、ジャンルの垣根を越え、能舞台の宇宙であらたな創造と一期一会の花との出会い/共鳴をめざしてきました。コロナ禍の配信公演や高知公演をへて、久しぶりに拠点能舞台で有観客公演を行います。第6回では、43年前の12月7日、53歳で早逝した観世寿夫と今年逝去された渡邊守章氏を偲びつつ、前半は音源・映像の鑑賞と野村万作氏による当時の創作や交流に関する貴重なトークを。後半は「実験工房」メンバーの秋山邦晴、福島和夫、湯浅譲二と早坂文雄の作品の演奏と朗読。花柳照奈が1972年、湯浅譲二に委嘱した『雪は降る』を直弟子の花柳奈卯女があらたな舞踊として創作。そして、言葉、音、歌、舞による即興を試みます。どうぞご期待下さい。

*実験工房：1951～57年、詩人瀧口修造の下にさまざまな分野の若手芸術家約14人が結成した総合芸術グループ。

2021年12月6日(月) 18:30開演 (18:00開場) 会場：鏡仙会能楽研修所 (東京メトロ「表参道」駅下車)

- [expt. A]**
- 『ミナマタ』(1976) 演奏(録音再生):秋吉敏子とルー・タバキン・ビッグ・バンド(語:観世寿夫)
 - ジャン・ルイ・バローの映像(1977)と渡邊守章氏のトーク映像(2019)
 - 狂言師 野村万作氏に聞く (聞き手:清水寛二)

観世寿夫 (1925-1978) 七世観世鏡之丞の長男として生れる。初舞台は4才の仕舞『狸々』。初シテは7歳の『経正』。古典以外に、「伝統芸術の会」「能楽ルネッサンスの会」「華の会」「冥の会」など、戦後の能楽復興期、能楽以外の芸術家、音楽家たちとも盛んに交流。能楽を越え、戦後の文芸復興におおきな影響を残した。43年前の12月7日、53歳で早逝。

渡邊守章 演出家、フランス文学研究者。『空中庭園』主宰。東京大学名誉教授。フランス文学・表象文化論専攻。70年に観世寿夫らと結成した「冥の会」でギリシャ悲劇等を演出。主な演出作品に、能ジャンクション『當麻』『薔薇の名-長谷寺の牡丹-』。著書『舞台芸術の現在』、訳書多数。2021年4月に逝去。

野村万作 1931(昭和6)年生。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)、文化功労者。祖父・故初世野村萬高及び父・故六世野村万蔵に師事。3歳で初舞台。早稲田大学文学部卒業。国内外で狂言の普及に貢献、ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。日本芸術院賞、芸術祭大賞、紀伊国屋演劇賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、法政大学観世寿夫賞、朝日賞、長谷川伸賞、中日文化賞、ニューヨークジャパンソサエティ賞ほか受賞多数。2019年米寿記念の著作「狂言を生きる」(朝日出版社)出版。練馬文化センター名誉館長。「万作の会」公式サイト <http://www.mansaku.co.jp>

- [expt. B]**
- 早坂文雄『うぐひす』(1944) 上杉清仁(カウンターテナー)
 - E・サティ『乾からびた胎児』(1913) 訳:秋山邦晴 高橋アキ(朗読)
 - 福島和夫『途絶えない詩』(1953) 甲斐史子(Vn)
 - 湯浅譲二『雪は降る』(1972、録音再生) 舞師:花柳奈卯女
 - 即興 甲斐史子(Vn)、上杉清仁(Ct)、高橋アキ(詩朗読) 清水寛二(舞)

上杉清仁 高知県出身。東京藝術大学大学院博士後期課程を修了し博士号(音楽)を取得。スイス・バーゼル音楽大学・スコラカントールムに留学し、ゲルト・テュルク、アンドレアス・ショル両氏のもとで研鑽を積む。しなやかで柔らかい美声と的確な解釈による多彩な表現には定評があり、日本を代表する実力派歌手として活躍。発声指導者としても著名。声楽アンサンブル『ラ・フォンテヴェルデ』メンバー。日本音声言語医学会、日本声楽発声学会員。

高橋アキ 鎌倉生まれ。東京藝術大学、同大学院修了。武満徹作品でデビュー。透明な響き、音色の柔軟な感受性を持って現代曲を演奏し、鮮烈な衝撃を与えた。1970年初リサイタル、72年ベルリン芸術週間、パリ秋の芸術祭で好評を博す。その後も欧米の数々の音楽祭で招待演奏。73年『高橋アキの世界』で芸術祭優秀賞受賞。1975年より『エリック・サティ連続演奏会』(12回)は「サティ再発見」の大きな契機に。第1回中島健蔵賞、第1回京都音楽賞ほか受賞。『ハイパー・ビートルズ』、現代曲、シューベルト、サティ等数多くのCDをリリース。

甲斐史子 桐朋学園音楽大学卒業、同大学研究科修了。現代音楽演奏コンクール(競奏V)第1位受賞。第12回朝日現代音楽賞受賞、2003年度青山バロックザール賞受賞、ドイツ・ダルムシュタットにて、クライニヒシュタイナー賞受賞。アンサンブル・ノマドメンバーとして、第2回佐治敬三賞受賞。国内外の音楽祭に出演するほか、数々の初演、録音を行っている。ジバングレーベルより3枚のCDをリリース。コジマ録音よりリリース「アイヴス：ヴァイオリンとピアノのための4つのソナタ」が第75回文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。東京藝術大学非常勤講師。

花柳奈卯女 1985年より花柳照奈(勲四等、紫綬褒章受章)の内弟子となり、晩年まで起居を共にする。花柳奈卯女の名を許され、日本舞踊協会主催新春舞踊大会で大会賞、会長賞を受賞。2001年、文化庁インターンシップ、文化庁国内研修制度。朝倉祺の下舞台美術を学ぶ。韓国芸術総合学校舞踊院招聘教授、都立総合芸術高校特別専門講師、都立駒場国際高校市民講師、東京芸術大学邦楽科非常勤講師を務める。その他、ファッションショー、イベントなどの振付等でも活躍。2020年～「KOKOROIKI PROJECT」をプロデュース。

清水寛二 能役者(鏡仙会)。早大教育学部卒。在学中に山本順之の指導を受け、鏡仙会に入門。故観世寿夫、故八世観世鏡之丞、九世観世鏡之丞等に師事。鏡仙会を中心に古典曲の上演の一方、故多田富雄作の新作能『沖繩残月記』『長崎の聖母』などの演出、シテを勤める。2021年、座・高円寺1にて新作能「長崎の聖母」「ヤコブの井戸」上演。現代劇・ダンスなどへの出演や、琉球の組踊、中国の昆劇、文弥人形など他伝統芸能との共同での舞台作りにも取り組む。東京藝大非常勤講師、「劇場創造アカデミー」講師。



観世寿夫



ジャン・ルイ・バロー



渡邊守章



野村万作



上杉清仁



高橋アキ



甲斐史子



花柳奈卯女



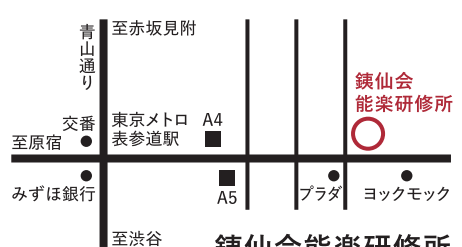
清水寛二

※今回、高橋アキさんは朗読のみでピアノ演奏はございません。

チケット(全自由席)：前売一般 4,000円 / 前売学生 2,000円
(当日一般 4,500円 当日学生 2,500円)

お問い合わせ・申込み：
鏡仙会能楽研修所：TEL 03-3401-2285 (平日10時～17時) / FAX 03-3401-2313
WEB <http://www.tessen.org> (ネットでもご予約いただけます)

マルメロ：e-mail: marmeloyama@gmail.com



演出：清水寛二 舞台監督：伊東龍彦 音響：相川晶 映像編集：飯名尚人 映像記録：古屋均
宣伝美術：坂本陽一(mots) 制作：齋藤朋(マルメロ)
主催：オフィスしみかん、青山実験工房実行委員会 協力：(公社)鏡仙会、万作の会、井阪敏、有馬純寿、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター ほか
東京都港区南青山4-21-29 TEL 03-3401-2285
東京メトロ「表参道駅」(銀座線・千代田線・半蔵門線)下車 A4出口徒歩4分
※駐車場はございませんので、お車のご来場はご遠慮下さい。